

●第4回きょうと☆いきものフェスが2日連続で開催。9月26(土)・27(日)



暫く晴が続いていたのに秋雨前線の居座りと台風26号などの影響で26日(土)の午前中は何とか持ちこたえていましたが、午後から降り出してしまいました。天気予報では朝から雨とされていたので出かけようと考えていた方の出鼻をくじかれたのか、全くと言ってもいいほど来場者はありませんでした。それでも用意してきたのだからと竹蛇籠の骨を下ろし、テントを張り、机を配置、椅子を並べて来場者を待ちました。天の橋立の松ぼっくりを使った松かさツリーですよと自信をもって取り組もうとしていたのですが、肝心のお客さんがサッパリ無くがっかりでした。植物園の売店で購入したお弁当はなかなか立派でしたが、元気を出し難くがっかりしました。それでも弁当が用意されたことは非常に良かったです。午後になって雨が降り出しテントの防水機能が全く失われていたので大変困りました。中にはこの雨はやむことが無いからとして店じまいされるところが出てきました。それでも里山の会では雨の小休止となる合間を縫って竹蛇籠の底部を2本作り上げました。すごい根性が発揮されたのです。松かさツリーも竹エンピツも全く話にならない結果で、明日に期待をして帰宅しました。

2日目の27日(日)の朝は昨日よりも調子がよく少しは期待して7時30分に事務所に集合して植物園へ出発しました。到着したのは8時45分。会場設営はスムーズ

にはかどり、天気が少し持ち直してきたようで出足は順調でした。松かさツリーも竹エンピツ作りも引切り無しに人が集まってきて賑わいました。竹蛇籠製作講習会は事前申し込みが5名ありましたが、26日はどなたも来られませんでした。27日は来園者の出足が良く、昨日と打って変わってスタンプラリーの皆さんが引切り無しに押し寄せてこられて随分にぎわいました。どこからお越しかと訪ねますと、神戸から大津から奈良から枚方からという方々が多くいらっしゃいました。京田辺からも来たよという方もいました。この日も午後から昨日とは比べ物にならない烈しい降雨が来ました。そしてその雨脚はやんでくれる様子が無く降り続けました。少し雨脚が弱くなった頃、スタッフの皆さんは我慢が出来なくなって(車が入れるのは17時以降だったので)それぞれが備品を門外



に運び出し始めました。小物は簡単でしたが、作り上げた蛇籠や素材の竹骨(7m)は簡単に運び出せず苦労しました。やはり大型の台車を用意しておくべきでした。今回の悪天候は早くから予想されていたのですから対応策を準備しておくべきでした。しっかり振り返りを行って教訓を学ばされる取組でした。悪天候の中スタッフの皆さん、力一杯奮闘いただきましてご苦労さまでした。ありがとうございました。

●11月21日に竹蛇籠製作にお招きされている岐阜県輪之内町の教育委員会の浅野様が27日、植物園でのいきものフェスに竹蛇籠製作体験に来られました。

輪之内町では以前1000本以上の竹蛇籠で川の堤防を守ってきたとの写真が根拠になって、街の歴史資料館に街を守ってきた竹蛇籠の現物展示をして歴史を学ぶ場を設けるとのことで、製作を30人以上の応募者と共に取り組みられます。そのための体験視察に事前にお越しになったので、11月21日に竹蛇籠のメンバーが学び取ったところを説明しながら長い竹を操り製作を行いました。見ているととても簡単で分かりやすいのですが、当事者となって実際に行ってみると難しいものだと感想を言っておられました。11月に現在のところ、現地に出かけて頂く予定者は11名(当初は6名程度だと思っていました)になるのではないかと予想しています。桜谷先生は名古屋から現地合流されるということです。こうした貴重なチャンスにご都合のつく方はご一緒ください。

●第3回子ども魚釣り大会を開催します。 10月4日(日)

これは国の天然記念物とされているイタセンパラの復元を目指す取り組みとして肉食のブルーギルなどの外来種を駆除することを目的に行います。イタセンパラが淀川水系の自然の中で最後まで生息していたのが木津川

で、その環境が今も残されていますのでこのような取り組みを始めてきまし

た。昨年の岐阜県の長良川では、イタセンパラは新しい住みかを好む魚であるらしいと教わってきました。4〜5年で捕獲出来ていたところではなくなるらしいということです。洪水や攪乱も新しい棲み処として行われなくてはならないのではないのでしょうか。本日ワンドまでの通路整備を行っていただきました。これからワンド周囲の釣り場確保の手入れの整備を行い、皆さんのお越しを歓迎しようと思っております。時間はありませんがご協力をいただけましたら大歓迎です。ご連絡をお待ちしています。



●11月15日(日)やましる里山の会結成30周年「記念集会の集い」を京田辺市中央公民館で行います。

記念講演を松波孝治先生から「東南海地震と私たちの暮らし」としてお話をいただきます。今、異常気象が続き水害や地震が身近に起きています。特に神戸の震災以後、東南海地震については他人事ではないと思われ、多くの犠牲が発生すると予想されています。事前に理解する場として先生に解説をお願いいたしました。東北地震での「てんでんこ」は大きな教訓とされましたが、忘れていませんか、災害は忘れたところにやってくるといわれてきました。ぜひこのチャンスにお越しください。

十月に咲く木津川の花



アマチャヅル



ゲンノショウコ



カワラヨモギ



アキノエノコログサ



ナンバンギセル



タコノアシ